

病院概要

所在地	東京都大田区千鳥2-39-10
交通	東急多摩川線 武蔵新田駅より徒歩5分
電話	03-3758-2671
病床数	98床（一般病棟／回復期リハビリテーション病棟／緩和ケア病棟）
職員数	178名（内 PT17名・OT14名・ST6名・MT2名）
診療科目	内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・外科・呼吸器外科・整形外科 脳神経外科・皮膚科・リハビリテーション科・放射線科

採用データ

採用人数	PT・OT・ST 各5名	初任給 (税込)	項目	職種	PT・OT・ST
			基本給		180,000
勤務時間	9:00~17:00（休憩60分）		皆勤手当		15,000
休日	月8休（シフトにより）		資格手当		30,000
休暇	夏期休暇・有給休暇 特別休暇(結婚・忌引き等)		合 計		225,000
昇給	年1回 4月		通勤手当		月額20,000円まで 規定により支給
賞与	有				
住宅	寮有（ワンルーム） 自己負担35,000円より		加入保険		健康・厚生・雇用・労災
			労働組合		無



見学・応募のお問い合わせ

法人管理部

☎ : 0120-27-3717

✉ : jinjika@yoshieikai.com



採用方法

提出書類	履歴書・成績証明書・ 卒業見込証明書・健康診断書
選考方法	書類選考・個人面接
選考日時	随時（令和6年3月迄）
選考場所	就職希望病院にて

* 国家試験の可否に関係なく採用します。



私たち、リハビリテーション科スタッフ一同は、

- 地域で『選ばれる病院』を創り続けます。
- プロフェッショナルな態度・知識・技術で信頼される医療を提供します。
- 理学・作業・言語・音楽 4 部門の効果的連携 (collaboration) を実践します。
- 主体的かつ楽しみながら **5つのコミットメント** に取り組みます。

リハビリテーション科の仲間たち



1. 医療の質と患者の心の両立
・医療技術だけでなくホスピタリティを提供しよう
 2. 臨床・教育・研究の3本柱の推進
・エビデンスを意識した確かな臨床実践を推進しよう
 3. 最新の知見や最先端のロボット治療の実践
・次の診療報酬改定を見越して先進的・挑戦的に取り組もう
 4. 退院支援だけでなく退院後の安心を提供
・機能回復だけでなく資源を有効活用しよう
 5. 音楽療法も含めたチーム医療の効果的な推進
・各部門の強みを活かし積極的に情報交換しよう
- ※最新知見や専門技術は
臨床実践の中で大枠の構築や精度向上をはかります。

2023 年度は、新入職員 7 名が仲間に加わりました！あなたの先輩を探してみましょう♪

出身校一覧：北都保健福祉専門学校、北海道リハビリテーション大学校、仙台医療福祉専門学校、晴陵リハビリテーション学院、アール医療福祉専門学校、帝京平成大学、日本福祉教育専門学校、東京都立大学、社会医学技術学院、首都医校、東京衛生学園専門学校、東都リハビリテーション学院、臨床福祉専門学校、湘南医療大学、国立音楽大学、昭和音楽大学、富士リハビリテーション大学校、東海医療科学専門学校、四条啜学園短期大学、奈良リハビリテーション専門学校、吉備国際大学、藤華医療技術専門学校、医療福祉専門学校 緑生館、武雄看護リハビリテーション学校、熊本総合医療リハビリテーション学院、宮崎リハビリテーション学院、宮崎保健福祉専門学校、宮崎医療福祉専門学校、沖縄リハビリテーション福祉学院（北から順不同）

リハビリ4部門の特徴

- ◎ 特定の手技に偏らない良いところ取り
- ◎ 外来、一般・回復期・緩和ケア病棟間の柔軟な連携
- ◎ 患者やスタッフ間での程良い距離感
- ◎ 個々のスタッフの意欲と主体性

理学療法

- ・スタッフに合わせた階層別研修の充実
- ・多様な障害、病期に対応できるジェネラリスト
- ・相談前に気付ける関係性
- ・院外資格の取得を推進し専門性を研鑽し続けよう

作業療法

- ・積極的な学術活動
- ・ロボットや嗅覚検査など新たな技術や知識
- ・社会人としての立ち振る舞いを自分で確認しよう
- ・手工芸や園芸などの作業を大切にしよう

言語聴覚療法

- ・年間30件以上のVF実施
- ・歯科医、栄養士との回診
- ・幅広い人員構成と相談しやすい職場環境
- ・全体構造法でプラトーの壁を越えよう

音楽療法

- ・国内でも数少ない神経学的音楽療法
- ・楽しく、そして効果的に！
- ・PT、OT、STとのコラボレーション
- ・米国留学や音大出身者

リハビリでは、こんなことをやっています!

音楽を用いた
歩行訓練



MT とのコラボレーション

頼りになる
仲間と相談

新人同士のプチ勉強会



最先端の
ロボット治療



TOYOTA Wel-Walk



Reo Go-J

オリジナルスプリント作製



変形の軽減に
効果を発揮

「園芸」という作業
(感じる) 場面の提供



Pt. OT、Ns による花やサツマイモ等の栽培

新たな機器
の導入
新・旧ツールの
コラボ



VES を用いた上肢機能訓練

最近の主な学術活動等 (2019~)

- ・ 2019. 10 International Conference on Nursing (in ローマ) : 筆頭演者 PT 1 名
 - ・ 2021 総合リハビリテーション 49(4) 認知行動療法②一脳卒中後うつ
 - ・ 2021 JPTS Vol. 33(10) Combined effect of pulmonary rehabilitation and music therapy in patients with chronic obstructive pulmonary disease
 - ・ 2021 作業療法 Vol. 40(5) 脳血管障害患者の「発症を契機とした変化」の実態
 - ・ 2022. 09 WFOT Congress 2022 (in パリ) : 筆頭演者 OT 1 名
 - ・ 2022. 10 日本作業療法学会 (in 京都) : 筆頭演者 4 名
 - ・ 2022. 10 日本筋骨格系徒手理学療法学術大会 (in 東京) : 筆頭演者 1 名
 - ・ 2022. 12 日本理学療法管理研究会学術大会 (オンライン開催) : 筆頭演者 1 名
- テキストマイニングを用いた企業理念との比較でみる病院理念の特徴 (大会長賞)

製作: リハ科のゆかいな仲間達

多様な障害、病期に対応できる
ジェネラリストを育成しています！

〒146-0083
東京都大田区千鳥2-39-10
TEL: 03-3758-2671
FAX: 03-3758-2664



頼りになる先輩ばかりで、
明るく楽しい職場です♪



4年目 PT

「臨床」回復期、一般、外来、緩和ケアにて、多様な障害を有した患者さまに対し、エビデンスを意識した確かなリハビリテーションを実践しています。退院支援だけでなく、退院後の安心を提供できるように日々患者さまと寄り添いながら臨床に励んでいます。



一人一人に合わせた丁寧なプログラムの実践



患者さまのニーズに合わせた退院支援



相談前に気付ける関係性

教育

理学

研究



最先端のロボット治療の実践



マンツーマンでの後輩指導



スタッフに合わせた階層別研修の充実

「教育」『理解できるまで』が基本の指導方法として、チーム内で偏りのない指導を実践しています。OJTや勉強会など意欲的に実施しており、入職後の新人研修も充実しています。外部講師による実地研修や個別指導も定期的の実施しており、スタッフの育成にも力を入れています。

「研究」脳血管、整形外科、内部障害、地域リハなどのプロジェクトチームを立ち上げ、主体的に活動しています。当院では脳卒中後の患者さまを対象に最先端のロボット（トヨタのウェルウォーク）を使用し、早期歩行獲得を目指した積極的な治療を実践し、エビデンスの構築に励んでいます。

【回復期リハビリテーション病棟実績指数】

在宅復帰率（全国平均79.1%）

94.5%

重症患者改善率（30%以上が基準）

76.0%

リハビリテーション実施時間

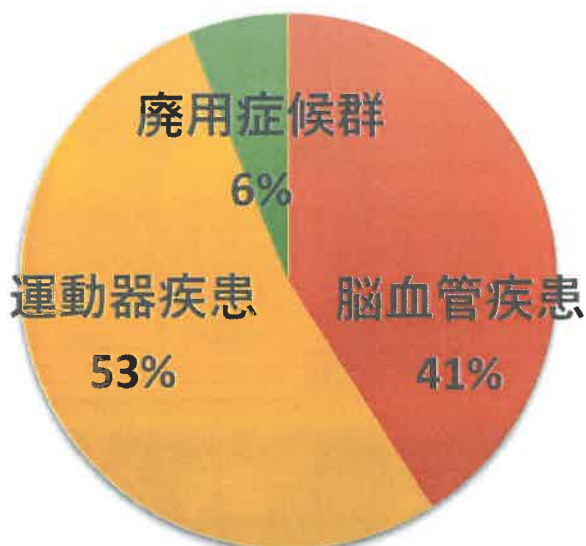
（全国平均6.46単位）

7.52単位

※1日平均2時間30分以上のリハビリテーションを提供しています。



疾患別割合



FIM利得（全国平均24.1点）

33.1点

※入棟時と退棟時の日常生活動作の差で、改善点数です。

FIMアウトカム（全国平均41.1）

43.3

※40以上あると「質の高いリハビリテーションを提供している」と認められています。

院外資格の取得を推進し、専門性を研鑽し続けています！

- 修士（理学療法学）
- 3学会合同呼吸療法認定士
- 福祉用具プランナー
- 福祉環境コーディネーター2級
- 医療経営士3級
- 地域ケア会議推進リーダー
- 介護予防推進リーダー
- 地域包括支援リーダー
- フレイル対策推進マネージャー
- 協会指定管理者（初級・上級）

「こころ」と「からだ」と「ひと」をつなぐ
作業を提供します！

全国から15名のOTが集まってるでえ～！！

出身校：アール医療福祉専門学校、首都医校、東京都立大学、
帝京平成大学、社会医学技術学院、湘南医療大学、四条畷リハ
大学、熊本総合医療リハ学院、藤華医療専門学校、宮崎保健福
祉専門学校



「こころ」当院はいわゆる身体障害領域の病院ですが心理面へのアプローチもしっかり行います。対象者の方はケガや病気で体だけでなく心まで傷ついています。作業活動や会話（面接）などを通して対象者の心理状態を把握し、少しでも苦痛（Social Pain）が和らぐようにリハビリを行っています。



作業活動の利用



青空の下での活動



音楽療法を通しての関わり



他国のOTと一緒に(WFOTパリ2022)



ニーズに合った
スプリントの作製



IVESを用いた上肢機能訓練

「ひと」当院では多くの人と関わります。対象者の幅は広く、一般病棟、回復期病棟、緩和ケア病棟、
外来・通所の患者さまとリハビリを行います。リハビリを行う上ではDrやNs、PT、ST、MT（音楽療法士）などとも連携します。学会発表などでは、院外（国外！？）の方と接することも。多くの人と関わる中で自分自身とも向き合い成長していきましょう。

「からだ」身体機能やADLの向上、在宅復帰に向け、特に回復期病棟ではエビデンスにもとづいたリハビリを行っています。2016年には、片麻痺のリハビリであるCI療法の勉強のため、アラバマ大学のモリス先生が来院されました。2018年には全国的にも珍しい上肢ロボット（Reo Go-J）を導入し、エビデンスの構築にも励んでいます。

当院の作業療法科は様々なことにチャレンジできる環境です！！



上肢ロボット**Reo Go J**を導入し、麻痺の方をはじめ、多くの方が使用しています。**Reo Go J**を導入している病院は全国的にも少なく、本地域でも初導入です。今後はロボットを使ったリハビリが流行っていくかも！？



緩和ケア病棟でのリハビリも行っています。がんや脳腫瘍の方を対象に、最後まで「生きる」を実感できるような作業を提供しています。病棟と協力して**園芸活動**を企画したことも♪東京の屋上で野菜を育ててみませんか？

学術活動

1年目から学会発表できるよう日々、意見交換やディスカッションを行っています♪プロジェクトチームという研究活動も業務時間内に行っていますよ！



R4	第56回 OT学会	・ ストレスに対する芳香療法の効果の有無 ・ 職場内での科学的研修システム導入の試み ・ 生活行為の形態を聴取することで掴めた糸口 ・ COVID-19患者の嗅覚と抑うつ状態との関連性
	WFOT学会	・ Relationship between Post Stroke Depression and Self Efficacy, self-assessment, disease experience
	帝京平成大学 紀要32	・ アルツハイマー型認知症の特異的嗅覚低下の検証-ニオイの同定能および脳の血流量との関係から-
R3	総合リハ 49(4).367-375	・ 入門講座 認知行動療法-脳卒中後うつ-
	第21回認知療法・認知行動療学会	・ うつ状態を呈する身体障害クライアントに対する認知行動療法（シンポジウム） ・ 脳卒中後うつに対する認知行動療法の有用性に関する一考察
	第55回 OT学会	・ アルツハイマー型認知症の嗅覚と光トポグラフィー解析結果の考察 ・ 脳卒中患者の上肢痙縮に対するスプリント装具の使用による効果 ・ 回復期リハビリテーション病棟における生活行為向上マネジメントの持続効果について ・ 脳卒中患者に対する認知行動療法的介入の効果
R2	作業療法 40(5).553-561	・ 脳血管疾患患者の「発症を契機とした変化」の実態－実態に関連する心理社会的側面からの一考－
	帝京平成大学 紀要31	・ 高齢者を対象とした五感に関する自己イメージ調査-地域包括活動への活動参加介入を通して-
	第54回 OT学会	・ アルツハイマー型認知症の特異的嗅覚低下の解明-ニオイの同定能と能の活性化に関する検証- ・ 脳卒中後の抑うつ状態において自己効力感とADL自己評価が与える影響 ・ 回復期リハビリテーション病棟におけるMTDLPの効果検証 -IADLと健康関連QOLの効果指標を用いて-



言語機能を中心としたコミュニケーションを支援し、
患者様の食べる楽しみを提供します。

ST6名で、ママさんもパパさんも、
新入職員も活躍しています！



『ことば』脳血管疾患による失語症や構音障害の患者様は当院にも多く入院されています。当院では全体構造法という訓練方法を取り入れ、患者様の「話す」、「聞く」力にアプローチしたりハビリを行っています。患者様が日々すこしづつ言葉を話せるようになる姿を見ると、私たちも元気をもらえます！

ことば

コミュニケーション

たべる

言語

SLTAの様子

言語訓練の様子

直接嚥下訓練の様子

VF検査画像

VF評価の様子

嚥下訓練（頸部聴診）

『食べる』食事は私たちにとって欠かすことのできない日常動作の1つであり、楽しみでもあります。当院では医師のもとに嚥下造影検査（VF）を行っており記録した映像を見ながら嚥下学会の診断基準に沿って問題点を検出し、訓練方法を考えています。患者様一人一人に適した食事形態、トロミを提供することで患者様の食事の楽しみを支えます。

『コミュニケーション』STの専門とする言語障害や高次脳機能障害はコミュニケーションに欠かせないものです。患者様とのコミュニケーションはもちろん、他の医療従事者との連携もリハビリの大切な要素となります。当院では医師はもちろん、看護師や栄養士、歯科医師との連携のもと週一回の嚥下回診を行っており、義歯の調整や嚥下訓練プログラムの立案を行っています。

